

城北中学校区新統合小学校建設基本設計特記仕様書資料



令和3年5月

飯山市



目次

I	建設基本設計の位置付け1
II	「飯山の新たな学校づくり計画」概要2
III	建設位置及び整備方法・概算経費3
IV	新小学校建設コンセプト等4~9
	1 新小学校づくりのコンセプト4~6
	2 開校に向けたスケジュール6
	3 学校規模(児童数・学級数)7
	4 施設の特徴(主な想定施設他)8~9

I 建設基本設計の位置付け

基本計画

- 「飯山の新たな学校づくり計画」に基づき、必要な機能、施設の特色やスケジュールの提示
- 基本設計に基づき、新たな学校のイメージと概算経費の提示
- 新たな教育の推進のための施設整備に関する基本的な考え方を定めるものです。

基本設計

- 必要な機能や面積・配置等から配置図やイメージ図と概算経費設計等を行うものです。

地質調査

- 実施設計にあたり、建設予定地の地質調査を行うものです。

実施設計

- ◎ 「基本計画」に基づき「実施設計」作成。
- 新小学校の校舎や給食棟、体育館・プール・グラウンドなどの詳細な設計を行います。

学校整備

- 実施設計により、新小学校を整備。
- 令和7年3月に引越をし、**4月開校**予定です。

II 飯山の新たな学校づくり計画概要

学校づくり計画概要（適正規模等）

○ 小学校適正規模

最適な学校規模として、集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、話し合い、切磋琢磨するため、1学年複数学級で「1クラス18人以上」とする。そのためには、**1学年36人・1学校216人以上**の児童数が必要で、学校統合による適正児童数確保が必要。

また、国が35人学級を進めるとしているので、国・県の動向をみながら、**市独自の適正な指導体制**も考えていく。

○ 小学校適正配置

低学年の通学方法等を考慮し、城南・城北中学校区毎それぞれに1校の統合小学校配置とする。

○ 小学校位置（城北中学校区）

城北中学校区4Km 円内の人口（6～12歳）密度が高い地域で、児童が通いやすく、城北中学校までの距離が近く、一定の面積が確保でき、災害影響（特に水害）の無い市有地として **【城北中学校南側グラウンド】**を最適地と考える。

学校づくり計画概要（目指す姿）

○ 子どもの目指す姿

飯山市教育大綱及び社会情勢や「新学習指導要領」を考慮し、子どもの目指す姿を

【自己教育力を持ち、自分の夢の実現に向け、新たな時代を生き抜く力を持つ子ども】とする。

○ 新たな学校教育施策1

学校統合により発生する資源等（人・もの・財源）を活用し、学校施設整備を始め、ICT 教育・英語教育の更なる充実や学力の向上と学力保障のための施策、ふるさと学習とキャリア教育のための予算や人材確保を進めて行く。

○ 新たな学校教育施策2

統合小学校開設に向け「**小中連携カリキュラム**」を推進し、小中9年間の連続性による学びの向上やキャリア教育など、教育環境の充実。

Ⅲ 建設位置及び整備方法・概算整備費

建設位置（城北中学校区）

- ◎ 「飯山の新たな学校づくり計画」に基づき、城北中学校区新統合小学校の建設位置を【城北中学校南側グラウンド】とします。



整備方法

- ◎ 建設予定地を城北中学校南側グラウンドとし、その他の条件などから、整備方法については【新設整備】とします。

概算整備費

- ◎ 新統合小学校の校舎、体育施設、給食施設、グラウンド他の概算整備費として【17億5千万円】を想定しています。

IV 新小学校建設コンセプト等

I 新小学校づくりのコンセプト(考え方)

「飯山の新たな学校づくり」で目指す子どもの姿として『自己教育力を持ち、自分の夢の実現に向け、新たな時代を生き抜く力を持つ子ども』としています。その実現のための新たな施策として、

1, 学校統合により発生する資源等(人・もの・財源)を活用し、学校施設整備を始め、ICT教育・英語教育の更なる充実や学力の向上と学力保障のための施策、ふるさと学習とキャリア教育のための予算や人材確保を進めていく。

2, 城北中学校区統合小学校開設に向け「小中連携カリキュラム」を推進し、小中9年間の連続性による学びの向上やキャリア教育など子どもの教育環境充実を図っていく。 としています。

その他「新型コロナウイルス感染症」のような大規模感染症対策や災害など、非常時での対応が可能な施設整備が必要です。また、SDGs(持続可能な開発目標)に対応する必要もありますので、最大限考慮していく施設整備を考えていくことも重要です。

城北中学校区新小学校の目指す姿(理念)

普通学級2学級を基本に、必要な機能を充実させるだけでなく、『目指す子どもの姿』に近づけるための施設等整備が必要であり、安心・安全で環境に配慮しながら、小中連携による9年間の充実した学びができる学校づくりを目指します。

ここで学んだことに誇りを持って、自分の夢の実現に向けた一歩を踏み出せるような学校づくりを目指します。

城北中学校区新小学校の学校づくりコンセプト(考え方)

- 安心・安全でほっとできる学校
- ICT教育・英語教育や学力向上と学力保障を進める学校
- ユニバーサルデザインを考慮した学校
- 地域交流も含めふるさと学習を積極的に進める学校
- キャリア教育を含め「小中連携カリキュラム」を推進する学校
- 大規模感染症や災害など、非常時にも対応できる学校
- カーボンニュートラルやSDGsに対応する環境に配慮した学校

○ コンセプト(考え方)の内容

コンセプト		主 な 内 容
1	安心・安全でほっとできる学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経路も含め、避難しやすい施設 ・ 児童とスクールバスが交差しない導線を確保した校舎配置等 ・ 昇降口、校庭等が見える職員室の配置 ・ 十分な防犯機能の整備(防犯カメラ設置を含め) ・ 冬期間の降雪にも快適に過ごすことができる施設
2	ICT 教育・英語教育や学力向上と学力保障を進める学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が学校内のあらゆる場所で1人1台端末を使用し快適に学習できる環境 ・ ICT の活用や英語教育・プログラミング教育に配慮した学習環境 ・ 放課後の学習機会が与えられる施設との連携を考慮した施設整備(児童クラブ・センターとの連携) ・ 高学年の教科担任制を考慮した施設(準備室の設置等) ・ 学習に快適な空間づくり(高断熱建築、冷暖房設備の設置等) ・ 柔軟な学習環境ができるスペース(例えば「広い廊下」「可動間仕切り」など)の整備 ★1 ・ 学校図書の充実と利用しやすい図書館
3	ユニバーサルデザインを考慮した学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ なるべくフラットな学校施設 ・ 広い廊下や昇降しやすい階段 ★1 ・ 多様な子どもに対応した空間の整備 ・ エレベーターの設置
4	地域交流も含めふるさと学習を積極的に進める学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人と児童が交流できる空間 ★2 ・ 中学生や地域住民も活用できる体育館、校庭等 ★3 ・ 飯山市や城北中学校区地域の魅力を学べる空間

5	キャリア教育を含め小中連携を推進する学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校で共有利用可能な施設の検討 ★3 ・ 小中学校教職員交流のための空間 ★2 ・ 「動植物の育成」など何かを育てる環境施設 ・ 冬期スポーツ推進のための施設(スキー置場など)
6	大規模感染症や大災害など非常時に対応できる学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大地震にも対応できる耐震化構造を有した施設 ・ 大規模感染症などで休校となっても、自宅等での学習が可能な環境(オンライン授業等) ・ 災害時避難場所としての環境整備 ・ 停電時でも使用できる施設
7	カーボンニュートラルや SDGsに対応する環境に配慮した学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然景観等を配慮した施設 ・ 太陽光発電等の再生可能エネルギーを利用した施設 ・ 断熱・節電等省エネルギーに配慮した施設 ・ 長野県産材を活用

主な内容はイメージであり、配置・整備が決定しているものではありません。

★印は共通の施設を表しています。

2 開校に向けたスケジュール

城北中学校区新小学校開校に向けたスケジュールは次のとおりです。

スケジュール

R3(2021)年度	R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度	R7(2025)年度
○建設基本計画策定 (基本設計)	○実施設計 ◎校舎・体育館等屋体整備			開校
(地質調査)		◎プール・給食設備整備	【引越】	
★城北中西グラウンド整備			◎グラウンド・駐車場等整備	

3 学校規模(児童数・学級数)

○城北中学校区小学校の児童数・学級数の推移

学校名		令和元年度		2年度		7年度		12年度(推計)	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
泉台小学校	1学年	18	1	14	1	12	1	7	1
	2学年	18	1	17	1	9	1	8	1
	3学年	14	1	18	1	8	1	8	1
	4学年	9	1	14	1	14	1	10	1
	5学年	21	1	10	1	6	1	10	1
	6学年	12	1	21	1	14	1	12	1
	計	92	6	94	6	63	6	55	6
東小学校	1学年	5	1	9	1	4	1	5	1
	2学年	12	1	5	1	8	1	6	1
	3学年	5	1	14	1	6	1	6	1
	4学年	13	1	5	1	7	1	6	1
	5学年	10	1	13	1	7	1	6	1
	6学年	1	0	11	1	9	1	4	1
	計	46	5	57	6	41	6	33	6
常盤小学校	1学年	7	1	11	1	11	1	8	1
	2学年	10	1	8	1	11	1	8	1
	3学年	7	1	11	1	7	1	8	1
	4学年	15	1	7	1	11	1	8	1
	5学年	13	1	15	1	9	1	9	1
	6学年	14	1	13	1	11	1	11	1
	計	66	6	65	6	60	6	52	6
戸狩小学校	1学年	18	1	22	1	15	1	10	1
	2学年	16	1	19	1	13	1	12	1
	3学年	25	1	17	1	13	1	12	1
	4学年	9	1	24	1	10	1	15	1
	5学年	25	1	11	1	16	1	15	1
	6学年	23	1	25	1	22	1	15	1
	計	116	6	118	6	89	6	79	6
城北中校区	合計	320	23	334	24	253	24	219	24
	2年比					75.7%	100%	65.6%	100%

◎新統合小学校の学校規模(児童数・学級数)

4小学校統合による学年毎の児童数及び県学級編成基準35人での想定学級数。

なお、国では学級規模について2年生からも35人学級とすることが決まっています。国は5年をかけて実施するとしていますので、5年以降30人学級へと繋がる可能性はあります。(普通学級30人規模教室も想定)

学校名		7年度		12年度(推計)	
		児童数	学級数	児童数	学級数
城北中学校区 新統合小学校	1学年	42	2	30	1
	2学年	41	2	34	1
	3学年	34	1	34	1
	4学年	42	2	39	2
	5学年	38	2	40	2
	6学年	56	2	42	2
	小計	253	11	219	9
	特別支援		4		4
	計	253	15	219	13

4 施設の特徴(主な想定施設他)

(1)統合小学校の主な想定施設(案)

教室	普通教室、特別支援教室、多目的教室(学習室、児童会室等)
特別教室	図書室、理科室、図工室、音楽室、家庭科室(調理室・被服室)、外国語教室
管理諸室	職員室、印刷室、校長室、事務室、会議室、保健室、教育相談室、給食棟(ランチルーム・厨房・休憩室)、資料室 教材室(準備室)、職員休養室、職員更衣室、職員トイレ、放送室、用務員室、機械室
生活交流空間等	玄関、昇降口、階段、廊下、児童トイレ(多目的トイレ含)、手洗い所、多目的ホール(交流空間施設)、エレベーター、シャワー施設
体育施設	体育館、グラウンド、プール(25m+小プール:更衣室等含む)、スキー置場
外構ほか	駐車場(教職員・来賓等:保護者は城北中学校と共有)、駐輪場、花壇、植栽、動植物育成施設、屋外多目的スペース スクールバス等車庫、その他付属建物等

施設の特徴

(2)施設の特色(案)

主な施設整備	城北中学校区新小学校の特色
外 観	周囲の自然に調和した外観(色・形状)とする。
屋 根	積雪対応の屋根構造とする。また、ソーラーパネルの設置なども検討する。
内 装	内装には、長野県産木材を活用し、「木のぬくもり」のある校舎とする。
普通教室	1学年2学級の30人規模学級を基本に整備し、多様な学習や少人数学習の対応等の工夫をする。
廊 下	ユニバーサルデザインや弾力的な学習ができるよう、多目的スペース兼廊下として有効な幅員を確保する。
階 段	ユニバーサルデザインとして、段差を低くすることや幅員を広げるなど、誰もが昇降しやすい階段とする。
図書館	4校の本が持ち込めるなど、一定規模の大きさの図書館とし、子どもが利用しやすい配置を考慮する。
体育館	中学生の部活や社会体育施設として必要十分な面積を確保し、避難所としての空調機能も考慮したものとする。
動植物育成施設	キャリア教育や生きる力を育てるため、動植物を育成するための環境施設を整備する。
グラウンド	トラックは外周200mがとれる広さのグラウンドとする。また、避難所として自動車乗り入れ可能な構造とする。